

シミュレーションの具体例：今後必要となる保育所数の予測

【凡例】黒字：関数・演算子

橙文字：手入力

項目	単位	計算式	当年実績	来年	再来年	3年後
追加で必要となる保育所数	箇所	=A÷B	1.7	3.7	5.7	8.9
A. 現状の保育所では対応できない児童数	人	=C+D	50	110	172	266
C. 甲エリアの対応できない児童数	人	=MAX(I, 0)	0	0	0	29
E. 想定される児童数	人	=F×G	2,100	2,142	2,185	2,229
F. 想定される住民数	人	-	70,000	71,400	72,828	74,285
G. 対象の児童率	%	-	3%	3%	3%	3%
H. 現状で対応可能な児童数	人	-	2,200	2,200	2,200	2,200
I. 対応できない児童数（単純計算）	人	=E-H	-100	-58	-15	29
D. 乙エリアの対応できない児童数	人	=MAX(N, 0)	50	110	172	237
J. 想定される児童数	人	=K×L	1,500	1,560	1,622	1,687
K. 想定される住民数	人	-	30,000	31,200	32,448	33,746
L. 対象の児童率	%	-	5%	5%	5%	5%
M. 現状で対応可能な児童数	人	-	1,450	1,450	1,450	1,450
N. 対応できない児童数（単純計算）	人	=J-M	50	110	172	237
B. 1保育所の追加で対応可能な児童数	人	-	30	30	30	30